



特定非営利活動法人



<http://nepal-mika.jp>

令和 5 年 春号 NO.68

# ネパール・ミカの会

令和 5 年 5 月 20 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



「令和の年も五年目となりました。」



理事長 齋藤 謹也

さかのぼること千三百年前天平の世、大宰師であった大伴旅人により催された「梅花の宴」の情景を描いた万葉集から元号「令和」が生まれたといわれます。気淑く風和らぎ…という由来だそうですが、あらためて考えてみると、五年なんてあっという間。

でもその五倍、二十五年を超えるネパール・ミカの会の活動はよく和を保ち、思いやりにみちた清楚な道のりを歩き通してきたと思います。

会員の皆様はじめ、多くのボランティア精神あふれた方々の協力。そして受け入れ側のネパールの協力者などなど、感謝の思いがよみがえります。

一つの区切りとして、第 22 回ミカの会ネパール教育支援団の派遣を今春行い、加藤副理事長を代表として、学校建設中であった二校の完成引き渡しを中心に無事終了して帰国されました。本当にご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。

コロナ禍などというやっかいな状況も少し静まりつつある今日、旅行団が行き、理事会及び総会が開かれることはうれしいですね。高齢少子社会の中で本会の今後を皆様とよく話し合い光明をみだせればと思います。



上段はシリ・マヤデビー校 / 下段はシリ・アマリ校 贈呈式



村長・近接の校長の臨席でシリ・アマリ校贈呈式です。



マズワニ校訪問。新川 MMR も綺麗に管理され授業に使用中でした。

「正直なところ少しほっとしました」

加藤 誠一

長かったコロナ禍でルンビニでの校舎建設・助成金事業も進まず現地のラマ理事初めストレスが溜まった数年でした。少し強引かなと思ながらも第 22 回ネパール教育支援の旅を提案したところ思いもかけず 9 名でネパール入りすることができました。決まってからの時間が少なかったので準備にてんてこ舞い。申し訳ないことにラマ理事もルンビニを行ったり来たり。

前記の事業を完成させたいという気持ちがラマ理事にプレッシャーかけたことをお詫びしたい。

シリ・マヤデビーそしてシリ・アマリも 2 教室の増築がペイント作業を除きほぼ完了。贈呈式がアマリ村の村長、各学校長臨席のもと盛大に行われました。その式典に同席することができてとても嬉しかったし、汗をかきながら約 1000 名の子供たちへのプレゼントの準備をし、手渡しをしたメンバーに心より感謝いたします。

始めてルンビニに入った 25 年ほど前は校舎らしいものも無く、裸足で鼻を垂らした子供ばかりでした。ミカの会の活動は就学率の向上や教育・健康の促進に僅かばかりでも影響を与え続けてきた事を確信しています。

今回宿泊の笠井ホテルにもマズワニの卒業生がいてしっかりスタッフの役割を果たしていました。ほんとうに嬉しいことです。

もう以前のように学校・校舎の建設をすることは経済的にも難しくなりつつあります。私たち会員がネパールに行くことすら年齢的に厳しくなっています。幸い今回の事業が終われば寄付金や助成金事業はなくなるので、少しマイペースで初心に戻りながら事業を進めていくのが賢明では無いでしょうか。

カトマンズの近代化とルンビニとの格差がなかなか現実のものを受け入れられないのが実感。一体どんな国になるのだろうか？

## 「ルンビニでの贈呈式」

加藤 雅子

昨年11月の理事会で、猛威をふるっていたコロナが世界的に落ち着いてきたので来年春には支援の旅に行けるのでは、状況によっては行く、という話が出ました。私はその時は本当に行くことが出来るとは殆ど思っていませんでした。しかし今年1月の理事会で行くことが決まり、ラマさんとの日程調整とゴビンダさんから助言をもらいながら飛行機のチケット、ビザの申請など皆で手分けして動き出しました。2月のスリジャナさんご夫妻来日もあり久しぶりのバタバタ、ザワザワとした1ヶ月余りを過ごしました。

なるべく早くネパールへ行きたいと思っていた訳は、2018年から始めている齋藤公三・美江子さんからの寄付によるアマリ校とマヤデビ校の校舎建設がコロナの影響で中断され進んでいない状況が続いていたからです。そして「ひろしま祈りの石」からの助成金事業も中断したままでした。この二つをなんとか終わらせようということでした。

3月7日夜遅くカトマンズに入りました。翌日8日夜6時過ぎカトマンズからバイラワ空港に到着しました。隣には真新しい堂々とした建物の国際空港と広い駐車場が出来ていました。近い将来、ここには海外からのたくさんの観光客が訪れて、私が知ることの出来ない新しいバイラワの風景が始まる事でしょう。

ルンビニへ向かう道路の「良くなっている」という噂は聞いていましたが、広くてデコボコ道ではなく以前は1時間以上かかって笠井ホテルに着いていたのが、たったの20分で着くことが出来る程立派な道になっていました。これは本当に身体が疲れなく良かったです。

3月9日マヤデビ校、3月10日アマリ校と2校の贈呈式を行うことができました。どちらの学校もいつものように熱烈な歓迎を受けました。子供達の手作りのマリーゴールドのレイを沢山首に掛けてもらいました。校庭には、生徒、先生の他、村長、地域の人々、親等多くの人が集まっていました。一番印象に残っているのがアマリ校で歌ってくれた「ネパール国歌」です。初めて聞きましたが、歌詞の内容は理解できませんでしたが、心に響く良い歌声でした。

齋藤公三・美江子さんからの大切な寄付金の使い道を見届ける事が出来て心から良かったと思っています。ルンビニの子供達には、この校舎でしっかりと勉強して自分は何ができるか、何がしたいかを見つけて大きく進んで行ってほしいと願っています。

最後に、ラマさん、今回も大変お世話になりました。お子さんの成長を楽しみにします！ありがとうございました。

## 「4年ぶりのネパール」

武 五月

2023年3月、4年ぶりにネパール行った。  
縁あってネパール紅茶の輸入販売をしているから、これまで何回もNepalには行っているが、なかなかタイミングが合わず、ミカの会の支援の旅に参加するのは初めてだった。

日程が決まり、航空券、ビザとどンドン話が進み、とりあえず途中までミカの会の支援の旅に同行し、後半は一人で残り、紅茶のお仕事などする予定を立てた。

帰国便のキャセパシフィックが取れず、結局行きもネパール航空の直行便で先にネパール入りし、3月7日の深夜カトマンズの空港で皆さんと合流した。

合流翌日は、スワヤンブナート、ボダナートなど少し観光し、夕方の便で今回の支援の目的地ルンビニへ。カサイホテルに宿泊し、遅めの夕食をいただく。

8日は朝から子供たちへのプレゼントを用意し、最初のマヤデビへ。

私にとって初めての支援先訪問だったが、新しくできた校舎のテープカットをさせていただいた。まだ壁の色を塗ったり、テーブルや椅子などを入れたりする必要はあるものの、風通しの良い教室だ。小さな子供の教室の床をきれいにし、低いテーブルと大きなテレビが欲しいとのことだった。

床や低いテーブルはわかるが、テレビは本当に子供たちの教育に必要なのかな？

絵本が欲しい！とかなら、すぐに賛成できるのだけど。

制服を着ている子たちもいたが、そうでない子も多く、もしかしたら、生徒以外の子供たちも来ているのかな、という印象を受けた。



昼食後にマズワニへ。ここは午前中訪問したところと違い、子供たちが教室に入るときに靴を脱いで入っている。みな制服をきて、先生の話をよく聞いていた。新川会員のメディアルームもきちんと利用されている。

9日は、ちょっぴりルンビニ公園観光後、今回のもう一つの支援校アマリへ。

前日お土産を一人分ずつ流れ作業でパックしたのと、先生方がお手伝いしてくれたので、お土産配りはスムーズ。新しい校舎は2階だったが、こちらはまだ色塗りが終わっていないが、合わせて1階の外壁も塗ってほしいとのこと。

支援の旅の間に、以前イギリスのマンチェスター大学の先生に言われた話を思い出した。目の前に飢えている人たちがいる、あなたはどのように助けるか？という話。

食糧をあげる→しばらくはよいが食糧がなくなるとまた飢えてしまう。目の前に湖があるから、魚の取り方を教える→網を使い大量の魚を取って売ることができ→しばらくは裕福になるがそのうち魚がいなくなりまた飢えてしまう。

何が良いのか、みんなよく考えること！というメッセージで、この設問に答えはなかったように思う。

メンバーの皆さんと別れて1週間ほどして、ルンビニを訪れた日本人女性と知り合った。彼女もカサイホテルに泊まったそうだが、ルンビニでは、ホテルの人もとても感じが良く、子供たちがバスの中から一生懸命手を振ってくれて、日本人が大好きという印象を受けたと言っていた。25年続けたミカの会の活動は、ルンビニでしっかり受け止められているのだなと感じうれしくなった。

## 「テープカットに感激」

日野 由美子

今回、始めて支援の旅に参加しましたが、ミカの会に入会して年数も浅く、分からない事も多いので、他の参加者の皆様の足でまといにならない様になりたいと思っていました。

3月7日に羽田空港から香港経由でカトマンズに到着したのは深夜でしたが、ラマさんとスリジャナさんご夫妻が迎えに来てくださり、嬉しかったです。

翌日の夕方の便でルンビニに向かい、9日は車で、日本とはまるで違う車窓風景を見ながら、最初の支援の学校、マヤデビに着きました。村長さん始め、村の人々、学校の先生たち、生徒たちが出迎えてくれた事に感激しました。

歓迎式典では校長先生たちのご挨拶の後、新しい校舎のテープカットを武さんと出来た事が良い思い出になり、和田さん、加藤雅子さん、中野さんの息のあったオカリナ演奏が自然豊かな校庭に響きました。

午後にはマズワニに出向き、制服姿の生徒たちが熱心に学ぶ姿を実際に目にして、支援の尊さを実感しました。

ホテルに帰ってから、翌日に行くアマリの生徒たちに渡す品物の袋詰めを全員で頑張りましたが、思ったより時間がかかり、汗だくになりました。

しかし、アマリでも大歓迎を受けて、そんな苦勞も吹き飛び、ミカの会が、ネパールの学校支援を続けて行く素晴らしさが、わかったように思います。

疲れたけれど、有意義で、元気をもらえるボランティアでした。

最後になりましたが、一緒に参加された皆様、そして現地でも色々なサポートをしてくださるラマさんにお世話になったお礼とご健勝をお祈り申し上げます。

## 「スリジャナご夫妻 日本滞在報告」

教育支援の旅でネパールを訪問する度に、トリブバン空港で大変お世話になっていましたスリジャナさんが、ミカの会の招聘で夫のディベンドラさんと共に2月20日來日され、仏式の結婚式箱根一泊旅行、鎌倉巡りの旅、また買物等を会員と一緒に楽しみ、3月4日に帰国されました。ディベンドラさんは初來日でした。

メインの催事は27日に齋藤理事長が築田寺で執り行って下さった仏式の結婚式でした。美智子様が朝早くから着付けて下さった打掛け姿のスリジャナさんの美しかったこと。森山さんの協力で羽織袴を身に着けたディベンドラさんの誇りに満ちた姿。

お二人とも本当に幸せそうでした。式には会員12名が参加し、その後の懇親会では楽しく和やかに交流することが出来ました。ミカの会の会からは夫婦湯飲みをプレゼントさせていただきました。ご夫妻からたくさんのお土産をいただいたこともご報告させていただきます。末長くお幸せに過ごせますように。

(和田泰子記)

### “スリジャナご夫妻からのメッセージ”

日本滞在中では何もかも素晴らしかったのですが、一番心に残ったことは仏前の結婚式でした。初めての着物、羽織袴がとてもうれしくて、ネパールに帰って家族・友人に写真を見せながら皆で喜びあいました。齋藤先生・美智子先生に本当に感謝しています。

皆さまと行った旅では箱根からの富士山の美しさに感動し、鎌倉の大仏はネパールには無いので興味深く、何処でも沢山の写真を撮りました。食べ物もとてもおいしくて、お好焼を自分たちで焼いた体験や黒玉子も面白かったです。皆さまと色々な所に行けて、本当に楽しい毎日でした。また美智子先生とまわった学校では、ネパールとの勉強方法の違いがわかって良い教え方だと思いました。ゴビンダ先生との旅では、大阪・京都・広島の方まで行くことが出来て、新幹線にも乗れてとてもうれしかったです。

滞在中、沢山の経験が出来て本当に楽しかったです。会員の皆様またお寺の関係者の皆様、本当にありがとうございました。



☆☆☆ 2023.01.21 新年会 ☆☆☆

コロナで中断の年末の懇親会の振替で新年会が行われました。なかなか感染がおさまらない中での開催でしたが、直接顔を合わせての会食は嬉しいですね。会場は築田寺内のプレーオープン精進料理「ときとそら」でした



☆☆ 2023.01.27 第4回つながり保育園異文化交流事業☆☆

ネパールの紹介。今回は歌や音楽「オカリナ演奏」に加え民芸品やアクセサリーで遊びました。子供たちはあつという間に打ち解けてとてもうれしそうでした。こうした事業もこれからは検討する必要がありますね。

と一緒に参加される会員の方を募集します。



カトマンズの変貌にびっくり

コロナの為に国際線は大打撃。料金も高止まり、スタッフも不足していて大騒ぎといったところか。今回は直行便を避けて香港経由キャセイ航空でした。国際線往復そして4回乗ったネパール国内線すべて満席。日本滞在のネパール人は10万人を超えたそうです。成長著しいネパールへの支援も変化せざるを得ないですね。少なくともカトマンズのハード面の変化は驚くばかりでした。どこでも食事がとても美味しくなったと思う。トイレの心配もかなり軽減されました。どうなる？ KTM.



笠井ホテルでマズワニの卒業生・そしてラマさんのシャイな長男。カトマンズ市内のスーパーやビルは近代化が進み停電はもはや過去の話。街中のディスプレイは我が町よりはるかにクール。

今回の旅は腰痛とお腹の調子が上手く出来るか心配の旅でした。会員の皆様と羽田空港でスムーズに会いホッとしました。香港の5時間待ちも安心でした。夜のカトマンズ空港でラマさん、スリジャナさん夫妻のお迎えにで嬉しかったです。現地時間で24時半位にバイシャリホテルにチェックイン。翌日はバイラワ行きの方が午後なので、10時にホテルを出発してスワヤンプナート、ボダナート見学。ボダナートでラマさん家族に会えました。ヤンチェンちゃん14才、チョインちゃん12才、ジャンベル君3才、そして奥さんのドマさんです。皆さん、元気なので安心しました。

別れてから飛行場に向かいましたが待合室も綺麗になっていました。飛行機が遅れた為バイラワ空港には19時近くで笠井ホテルには19時40分到着です。それから夕食なのでホテルの方々には感謝です。

3月9日はマヤデビー校の贈呈式。ノート、鉛筆、テニスボール、歯磨きセット、石鹸等と加藤誠一さんのお孫さんからのクッキーとジュースを日本から持っていった袋に詰めてプレゼントを配りました。午後からはマズワニ校へ、新川マルチメディア教室も綺麗に使われていてホッとしました。

翌日はマヤ聖堂にお参り後、アマリ校の贈呈式です。大勢の生徒達が校庭で待っていてビックリです。昨夜、みんなで作ったノート、歯磨きセット、クッキー、ドリンクの袋のお土産を汗だくで配りました。ルンビニの式典も終わりホッとです。次の宿泊はナガルコットのカントリービラ 二泊。

曇っていて山々は見る事が出来なく身体を休めていましたが、早朝、ドアが叩かれて外に出るとヒマラヤが見えるではありませんか。ほんとうにビックリ。

散歩しながら、近くのホテルから見た景色も最高でした。ナガルコットから戻り王宮広場や買物等をして、最後の日は昔のネパールが残っている町に行きました。バナウティです。

古い寺院がいくつかあり、歴史的にも美術的にもネパール建築がある静かな街です。火葬場もあるクリシュナ寺院も静かにたたずんでいました。

その後、ナモブッタへ車を走らせます。何年前かに齋藤理事長、齋藤美江子さん等と一緒にいった所でした。お腹が空いた虎の親子に自分を差し出したと言われている所です。行く途中で山の中腹の仏像を見て思い出しました。車を降りて昼食を食べて階段を登ります。

以前も休みながらゆっくりと登りました。最後に虎の絵の所で大勢の中国人の方々がお経を唱えていました。今回は3人の方が熱心に拝んでいました。二度と来られないと思っていたので、本当に嬉しかったです。

腰、お腹も大丈夫でしたので、無事に帰国できた事を一緒に支援の旅に参加された方々に感謝します。また、予期せぬ事が起きたのに対応してくれたラマさんにも感謝します。ありがとうございました。...

思いもよらぬコロナ禍でワクチン接種も5回を数え、すっかりマスクを付ける生活に馴染んでしまったこの頃です。

ネパールに行けなかったこの4年の間に又、歳を重ね、60代から70代になり、60代では抵抗のあった“高齢者”という呼称にも、役所から高齢者保険証などが届いたりして嫌でも自覚させられ耳慣れてきました。

そんなどこか不安な気持ちを抱えて「第22次ネパール教育支援の旅」に参加して来ました。“皆で今回が最後の支援旅行かもね・・”と話しながら。空港もデジタル化が更に進み、帰国時の手続きが楽になるからとスマホでのVisit Japan やワクチン接種証明の登録、飛行機のチケットの予約等、スマホが大活躍です。

さてカトマンズのトリブバン国際空港に着いたのは夜遅くて、バイシャリホテルに入ったのは日本時間深夜2時を回っていたと思います。朝、自宅を出てから丸一日起きていた事になります。やはり飛行機の移動は疲れます。トリブバン国際空港もきれいになり、昔みたいに待たされる事はなくなりました。でもバイシャリホテルは益々古くなっていて、エレベーターもガタガタでやっと動いている状態だし、相変わらずシャワーのお湯はすぐ水になるし茶色いし、それでもコロナ禍でリニューアルなどとても無理そうでした。

翌3月8日はカトマンズにある仏教の聖地スワヤンプナートやボダナートなどのお寺にお参りした後、ラマさん家族と会って一緒にお昼ご飯を食べました。娘さん二人も14歳と12歳になり、下の男の子も3歳と成長していて、ラマさんも子育てに大変な時期ですが、すっかり良い父親の顔をしていました。

その日の夕方に支援先のルンビニに向かいました。本当は日のある内にルンビニに着いて夕陽を見たかったのですが、残念ながら間に合いませんでした。笠井ホテルは綺麗で経営者が日本人なので、食事も美味しいし何より湯船につかれるのでホッとします。

ここで三泊出来るので疲れが取れます。翌日は皆でホテルの地下の部屋を借りてマヤデビー校の贈呈式にプレゼントする歯磨き、歯ブラシや石鹸、ノートや鉛筆などを布袋に詰める作業をして、10時にマヤデビー校を訪問。生徒や先生方や村人達の歓迎を受け、出来上がった教室のお祝いの挨拶をして贈呈式を行いました。

その後準備していた支援品や加藤副理事長の家族からのプレゼントであるジュースにクッキーを配りました。午後は古くからの支援先であるマズワニ校を訪問し、日本から持って行った鉛筆やプレゼントのジュースやクッキーを配りました。会員の新川さんが作ってくれた新川マルチメディアルームも見えてきましたが、きれいに使われていました。8年生までが利用するそうです。

マズワニ校からホテルに帰って、明日訪問するアマリ校の生徒達にプレゼントする支援品の歯磨き、歯ブラシや石鹸そしてノートや鉛筆を人数分の袋に詰める作業を皆でしました。数が多いので結構な手間がかかり、終わったときは皆、疲れていました。

翌3月10日は10時頃マヤ聖堂にお参りした後、アマリ校を訪問しました。狭い校庭に生徒たちや先生方はじめ、村の村長や村人などが大勢並んで私達を歓迎してくれたので、ビックリしました。

加藤副理事長が歓迎のお礼と2階に作った新教室のお祝いの挨拶をした後で、私も理事の一人として挨拶をさせていただきました。

「2018年に会員の齋藤美江子さんが支援旅行に参加して、ルンビニのこの学校を訪ねた時に教室が足りないという事を聞いて、作ってくれた教室です。大事に使って下さいね。

彼女は高齢のために来られなくてとても残念ですが、皆さんがこの教室で勉強して、ルンビニのためにネパールのために役立つ立派な人になってくれたら嬉しいです。と・・又、もう来られないかも知れないので」とも。美江子さんの笑顔が浮かびました。とても素晴らしい感動的な贈呈式でした。



## 「最後かも、と思って出かけたネパール」

和田 泰子

2019年の教育支援の旅を、母の病状悪化でキャンセルした翌年から長いコロナ禍に突入し、今年は5年ぶりのネパール訪問だった。この5年の間にネパールはビックリするほど変わっていた。

主に都市部だが、見上げるような展望タワー、きらびやかなショッピングモール、ボダナートの仏塔を眺めながらラテアートのコーヒーを飲み、藤井風の“死ぬのがいいわ”を聴く若者。夜もネオンサインがともし音楽が流れる大通り。電柱に鳥の巣のように絡んでいた電線は、地中に埋める工事が行われていた。その反面、路地に入れば地震で崩れたレンガがまだ山積み、雨が降ればたちまちぬかるむ道。観光地では赤ちゃんを抱いてうずくまる物乞いの女性。都市部と地方、人々の生活には増々格差が広がっているように見えた。

今回のネパール訪問の一番の目的だったシリ・マヤデー、シリ・アマリ校の増築された校舎の引き渡し式（会員の齋藤美江子さんご主人公三さんのご厚意で完成）と、ひろしま祈りの石の助成金支援先変更の候補校視察と支援内容の検討、またシリマズワニの新川マルチメディアルームの視察等は順調に遂行出来てほっとした。

長期間にわたるラマさんのご尽力に感謝すると共にミカの会の仲間の団結力（3校；千人分の教育用品・衛生用品の準備等）に感動した。

### シリ・マヤデー校



この旅では私たち夫婦は他に楽しみにしていたことがあった。カンチェンジュンガ山群をインド側から眺める事と、ラリグラス（シャクナゲ）の群落を見る事。これは突然の国境封鎖というどうしようもない現実と私たちの体力低下で実現できなかった。これが「最後の旅」と思いながら出かけた旅だったが、ゆっくりゆっくりでも歩けるなら、もう一度挑戦してみようと思いつつ帰国した。

## 「忘れかけたネパールへ、再び！」

和田 寧人

ネパールは何年振りか？教育支援の旅への参加も遠い昔となっていた。コロナとの共生の時代になり、これが最後かと思いつつ参加した。期待叶わずの点もあったが、とても思い出深い旅となった。

其の1；ミカの会ジジババ軍団は健在なり

3校約千人の子供達・教師・地域の有力者・近所の野次馬に対して、前日の袋詰め準備から当日の式典・プレゼント渡しと疲労の溜まる事を淡々とこなしてしまった。もちろんルンビニでのラマさんの「顔力・交渉力」含めたパワー無くして成り立たないのだが、こりゃあ「まだまだやれるわい」と感じさせてくれた。

其の2；我が体力の衰えに忸怩・愕然たり

タメル雑踏やバイクやタクシーのガス・ホコリには強い！との自信があつてサンセットビューからタメルへ又パタンへと歩き回っていた。それが旅半ばで声が出ない、更に加え痰と咳が激しくなった。ラマさん差入れの「生薬入り蜂蜜」が徐々に効き、痰にはなつた。熱は無いものの痰と咳で夜寝られず、体力が徐々に失われていった。それでも食事を細々取り続けた為毎日ふらふらとタメルやパタンを歩き回れた。皆と別れた後石楠花トレッキングを諦めるしか無かつたのがとても残念な事であった。

其の3；クマリに会えた！

パタンのクマリ72歳、いまだ現役！ ディベンドラ・スリジャナ夫妻に案内されてクマリの自宅へ、家は表示の全く無い扉が玄関で、控室で待ち、クマリの所へ案内された。神様の前で深く頭を垂れ玉串料Rs500を差し出す、神様はティカを付けて祝福してくれた。今年の幸運を願った。まだまだ元気なおばあさんクマリ（実際は娘のままのクマリ）でした。生涯をクマリのままで過ごすのか？毎日毎日何を思い、何をして過ごしているのか？神の友は？話し相手は？と気になる事ばかりであった。しかし良い思い出、経験となった。

個人的に期待していたダーズリンからのカンチェンジュンガが見られなかった（必ず見られるとは限らない！）事は残念であった。19世紀末英国の植物学者J・D・フーカー（あのダーウインと親交があった人）の「ヒマラヤ紀行」の図版の山々を思い出した。国境封鎖では致し方ない！ラマさんの責任でも無い！最後にラマさんと同行9人の皆様大変世話になりました。気持ちの良い旅が出来ました。ダンネパート！



### 【編集後記】

長かったコロナとの戦いもやっと光明が見えてきました。しかしながら、その間も確実に歳を重ねました。25年ほど前にスタートした本会も例外でもなく高齢化が進んでいます。ほとんどのNPO法人が高齢化と資金不足に悩まされています。数年前からこの問題は理事会などでも検討されていましたが具体的な行動ありませんでした。でも、いよいよこの問題に対峙しないと思われず。皆さんの英知を期待いたします。 S.K